

「第30回日本小児心身医学会学術集会」

The 30th Annual meeting of the
Japanese Society of Psychosomatic Pediatrics

プログラム・抄録集

子どもの心身症は予防できるか
～周産期からの支援を通して～



会期:2012年9月7日(金)～9日(日)

会場:名古屋国際会議場白鳥ホール

会長:井口敏之(星ヶ丘マタニティ病院小児科)

第30回 日本小児心身医学会学術集会

プログラム・抄録集

子どもの心身症は予防できるか
～周産期からの支援を通して～

会期◆平成24年**9月7日**金～**9日**日

会長◆**井口 敏之**

星ヶ丘マタニティ病院副院長・小児科部長

会場◆**名古屋国際会議場白鳥ホール**

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

事務局◆**星ヶ丘マタニティ病院小児科**

担当：高瀬 昭生、山本 恭子

〒464-0026 名古屋市千種区井上町 27

TEL：052-782-6211 FAX：052-782-2678

e-mail：syonisinsin30@hoshigaoka-saisei.jp

後援◆日本心身医学会、愛知県産婦人科医会、
愛知県小児科医会、名古屋市小児科医会、
愛知県臨床心理士会、名古屋市教育委員会、
中日新聞

表紙の作者：草臥れさん

(「くたびれ」と読むと初めて知りました)

このチラシを作ってくれたのは、大会長の患者さんで20歳になる
受け身のアスペルガー症候群の女の子で、とってもユニークな子です。
“あんよはじょうず”というタイトルで作ってくれました。
抄録集を作るならぜひこの子に頼みたいと思っていて、願いがかなってうれしかったです。

ご 挨拶

第30回日本小児心身医学会学術集会の 開催にあたって

第30回日本小児心身医学会学術集会

会 長 井口 敏之

星ヶ丘マタニティ病院小児科



いよいよ学会です。これを書いているのは7月中旬。プログラムの概要ができて、抄録集発行のために必死になっている毎日です。この大会をお引き受けしてから約2年、自分の今までやってきたことの一つの集大成と思って、関わってきた人に総動員をかけながら、準備を進めてきました。それは当日のスタッフも同様で、みなさん、本当に気持ちよく、いいよ、手伝うよと言ってくださってすごくうれしかったです。

さて、今回の内容ですが、私自身のライフワークである、「子どもの心身症の治療と予防」「周産期からの支援」「子どもたちに情緒豊かに育ってほしい、そのために親子を支えていきたい」そんな思いの詰まった内容です。メインテーマに「子どもの心身症は予防できるか ～周産期からの支援を通して～」をすえ、シンポジウムを組み、一般演題もそれにこたえて多くの関連演題をいただきました。本当に重要な分野だと思いますし、ここに光が当てられたことが何よりうれしいです。

今は、先の見えにくい時代で、発達障害の次に何が来るのか、大きな展開が起こるのか、皆さんすごく興味があると思います、30回記念でもあり、ぜひこれは杉山登志郎先生にお聞きしたいと思い、お願いし、快諾をいただきました。とても楽しみです。学会としては、30回で記念誌も出ましたし、今回の学術集会で、温故知新シンポとして、歴史を振り返りながら、これからの発展の可能性をさぐるよい機会となると思います。私自身もこの学会に毎年参加することで優しい先輩方に声をかけていただき、あったかい居心地の良い場所でした。後輩たちにもそんな学会の場を提供していけたらと思います。

そのほか、企業展示や懇親会等、会場も含めできる限りの心配りをしているつもりですが、暑い名古屋でもあり、行き届かないところもあると思います。どうかそれぞれの先生方が何かをつかんで帰っていただけたらと願ってやみません。

参加者へのご案内

1 参加受付

参加受付は当日のみです。事前受付はございませんので、当日会場に直接お越しください。
9月9日の「公開研修会専門職のための発達障害セミナー」のみのご参加の方も同様です。

1) 参加費

一般：10,000円

学生：5,000円（学生証の提示が必要です）

9月9日（土）公開研修会：専門職のための発達障害セミナーのみの参加：2,000円

一般・学生の参加費をお支払いいただいた方は公開研修会の参加費は必要ございません。

2) 受付日時（受付場所は白鳥ホール（4号館）ロビー学会総合受付です）

9月7日（金）8:30～17:30

9月8日（土）8:30～17:30

9月9日（日）8:30～10:30

3) 参加証

参加費と引き換えに、領収証・認定研修会出席証明書兼用の参加証をお渡しいたします。
所属・氏名をご記入の上、会期中は必ずご着用下さい。参加証のない方は学術集会会場には入場できません。

4) 抄録集

日本小児心身医学会会員の方はあらかじめお送りしているこのプログラム・抄録集を必ずご持参ください。当日、受付でも1,000円で販売いたしますが、数に限りがございます。

5) ランチョンセミナーチケットについて

ランチョンセミナー開催にあたり、先着順でチケットを配布いたします。チケットはセミナー開催日ごとに、一人につき1枚です。

配布場所：学会総合受付

配布時間：9:30～11:30（8時半から9時過ぎまで受付が混雑しますので）

2 会員懇親会

日時：9月8日（土）18:30～20:30

会場：名古屋国際会議場1号館7F パステル

参加費：5,000円（学会参加費と同時に支払ってください）

3 学会および資格認定協会取得単位数

- | | |
|--------------|------|
| 1. 日本小児心身医学会 | 10単位 |
| 2. 日本小児科学会 | 8単位 |
| 3. 日本心身医学会 | 3単位 |

4. 日本小児神経学会	1単位
発表者	2単位
連名者	1単位
5. 日本小児精神神経学会	1点
発表者	1点
6. 日本児童青年精神医学会	1単位
7. 日本臨床心理士資格認定協会	2単位
発表者	4単位
シンポジスト・司会	3単位

4 特別講演、教育講演、シンポジウム、イブニングセミナー、ランチョンセミナー発表者各位へ

発表用機器は下記6の一般演題と同様です。座長の指示に従い、時間厳守での発表をお願いします。

5 一般演題 座長各位へ

開始予定時刻の15分前までに座長受付（総合受付）にお立ち寄り下さい。演者の名前読みリストのお渡しやご連絡事項をお伝えいたします。座長受付を通られた後、会場内前方の次座長席にお付き下さい。

6 一般演題 発表者各位へ(1)

- 1) 講演の発表時間は7分、質疑応答は3分程度です。セッションすべての発表者が、発表した後、全員登壇していただき、座長の指示のもと、質疑応答・討論をしていただきます。発表時間を遵守してください。
- 2) 次演者の方は、演壇すぐ近くの次演者席でお待ちください。
- 3) 発表機材はPC プレゼンテーション1面のみとなります。スライド・OHP は使用できませんので予めご了承ください。
- 4) 演壇にワイヤレスマウスがありますので、モニターを見ながらのマウス操作になります。（PC はオペレーター席にあるので演壇にはありません）
- 5) 発表するセッションが始まる前に次演者席付近でお待ちください。

7 一般演題 発表者各位へ(2) 発表用データの作成

- 1) 発表に使用するパソコンの OS は Windows7、アプリケーションは Microsoft PowerPoint 2010 とさせていただきます。（基本的に 2003 も 2007 も問題なく作動いたします）
- 2) Mac での発表をどうしてもご希望の方は、事前に事務局へメールでご連絡ください。
 ※ Mac の発表も可能ですが、データではなくご自身のパソコンでの発表 になりますので、パソコン本体、変換コネクタ (Dsub 15 ピンへの変換) と電源アダプターを忘れないようにお願いします。当日は、スライド受付 (白鳥 ホールロビー) まで、発表 1 時間以上前までにお持ちください。なお、6, 4) に記載してありますワイヤレスマウスによる操作ができない場合、演壇でのパソコン操作になる可能性があることをご了解下さい。

- 3) 発表用データのファイル名は「演題番号(セッション名-数字) 発表者名」としてください。例) メインテーマ関連 1-O-01 井口敏之
- 4) フォントは OS に標準装備されているものをご使用ください。
- 5) 動画、音声の使用はスムーズな進行の為、できるだけ避けて下さい。

8 一般演題 発表者各位へ(3) 発表用データの事前提出

1) 学会開催1週間前(9月1日)までに

学会事務局(e-mail: syonisinsin30@hoshigaoka-saisei.jp)宛に添付ファイルとしてお送りください。データサイズは5MB 以内でお願いします。2～3日以内に受け取り確認メールをお送りしますので、確認メールが届かない場合は事務局にご連絡ください。

- 2) その後に変更がある場合には、USB メモリにて当日スライド受付(白鳥ホールロビー)まで、発表1時間以上前までにお持ちください。
- 3) 事前の発表用データで動作確認等を行い、動作に問題あるものや発表時間が超過しそうなデータについては連絡させていただきます。
- 4) 発表直前の提出は対応できない可能性がありますので、必ず事前に発表用データをお送りください。
- 5) 発表用データは学会終了後に事務局が責任を持って破棄いたします。
- 6) ご質問等ある方は上記学会事務局へメールでお問い合わせください。
- 7) 事務局も万全を期していますが、万が一の状態に備え、ご自身のデータを USB メモリなどで学会会場にお持ちになることをお勧めします。

9 質疑・討論者各位へ

時間を節約するため、会場内マイクの前でお待ちください。

10 学会二次抄録

一般演題の発表者は、学会誌掲載用の二次抄録をタイトル、氏名、所属を除く本文400字以内にまとめて、Word ファイルにて、事前にあるいは9月末日までに学会事務局(e-mail: syonisinsin30@hoshigaoka-saisei.jp)にメールにてお送りください。ファイル名を「演題番号(セッション名-数字) 発表者名」としてください。学術集会期間中もスライド受付にてデータでお預かりいたします(印刷物は不可)。

11 関連会議

1) 理 事 会：9月6日(木)15:00～18:00

会 場：ウェスティンナゴヤキャッスル

(〒451-8551 愛知県名古屋市西区樋の口町3番19号 TEL: 052-521-2121)

2) 各種委員会：9月7日(金)12:00～13:00

会 場：名古屋国際会議場3F 会議室(432など)

3) 評 議 員 会：9月8日(土)12:00～13:00

会 場：名古屋国際会議場3F 会議室(432)

4) 総 会：9月8日(土)13:00～14:00

会 場：名古屋国際会議場白鳥ホール第1会場

12 企業展示・書籍・ドリンクサービスなど

期 間：9月7～8日、9：00～17：00予定
9月9日、9：00～13：00予定

参加団体：ヤンセンファーマ、モンテシステム、アサヒバイオメッド、メディリンク、
日本文化科学社、ガリバー、ネスレヘルスサイエンスカンパニー

場 所：白鳥ホールロビー

13 クローク(白鳥ホールロビー)

クロークをご用意しておりますので、ご利用ください。ご利用時間帯は下記のとおりです。
なお、貴重品は必ず、ご携帯ください。紛失・破損の責任は一切負いません。

受付時間：9月7日(金) 8:30～18:45(イブニングセミナー終了まで)
9月8日(土) 8:30～18:30(一般演題終了まで)
9月9日(日) 8:30～13:30(公開研修会終了まで)

14 託 児

概 要：今回は、(株)ポピンズ(社団法人全国ベビーシッター協会、社団法人経済同友会加盟)に、委託して学会当日8：45～17：00(最終日は13時まで)の時間帯に託児室を設置します。対象は1歳から就学前の幼児までとし定員は先着順で数名程度とします。

料 金：一日3,000円(当日学会総合受付にて徴収させていただきます)

申込期限：8月10日(金)

申 込 先：事務局(e-mail：syonisinsin30@hoshigaoka-saisei.jp)にメールで。
『第30回日本小児心身医学会学術集会託児予約』とメールにお書きください。
1週間以内に申込用紙を添付してメールで返信します。
当日は、委託した保育士が担当します。万一の事故、ケガの場合には、(株)ポピンズが加入している保険適用の範囲内で補償されます。本学会の事務局は、事故などの責任を負わないことをご了解ください。

15 お 願 い

- 1) 建物内は禁煙です。喫煙は指定の喫煙場所(屋外)でお願いします。
- 2) 会場内での携帯電話・PHSなどのご使用は他の参加者の迷惑となりますので、使用は禁止させていただきます。電源はOFFにするかマナーモードでご使用いただきますようお願いいたします。
- 3) 会場内での許可されたもの以外のカメラやビデオ撮影・録音は固くお断りします。
- 4) 9月の名古屋は蒸し暑い可能性が高いです。ぜひ、クールビズでのご参加をお願いいたします。例)ノーネクタイ、かりゆしウエア、ポロシャツなど。(演者・座長も同様です)
ただし、昨年のお阪同様、水着・ビーチサンダル・ステテコはご遠慮願います。何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

16 第3回認定医試験の事前打ち合わせ(認定医試験の運営担当者)

1) 日 時：9月7日(金) 場 所：名古屋国際会議場3F 436

2) 時 間：18時45分～(約1時間で終了予定)

※第3回認定医試験の運営担当者は、イブニングセミナー終了後お集まりください。

17 第3回認定医試験のご案内

1) 日 時：9月9日(日) 場 所：名古屋国際会議場3F(431会議室前で受付)

2) 時 間：8時45分～受付開始、
9時～試験説明、9時20分～筆記試験、
10時5分～面接試験(10時55分終了予定)

3) 試験会場：筆記試験：431会議室(受付と同じ) 面接試験：433～435会議室

4) 試験方法：筆記試験：選択式 30分 面接試験：口頭試問 10分

※受験の詳細については、各受験者に連絡しております内容をご確認ください。

18 次期学術集会のご案内

第31回日本小児心身医学会学術集会

会 長：汐田まどか(鳥取県立総合療育センター)

会 期：平成25年9月13日(金)～15日(日)

会 場：米子コンベンションセンター BiG SHiP

〒683-0043 鳥取県米子市末広町294

19 学会期間中の連絡先

9月7日から9日：名古屋国際会議場白鳥ホール学会総合受付

学会ホームページ：<http://www.jisinsin.jp/>

開催事務局：星ヶ丘マタニティ病院小児科

担当：山本 恭子

実 行 委 員：井口 敏之、金子 宏、高瀬 昭生、山本 恭子、関口 一恵、
川西 陽子

〒464-0026 名古屋市千種区井上町27

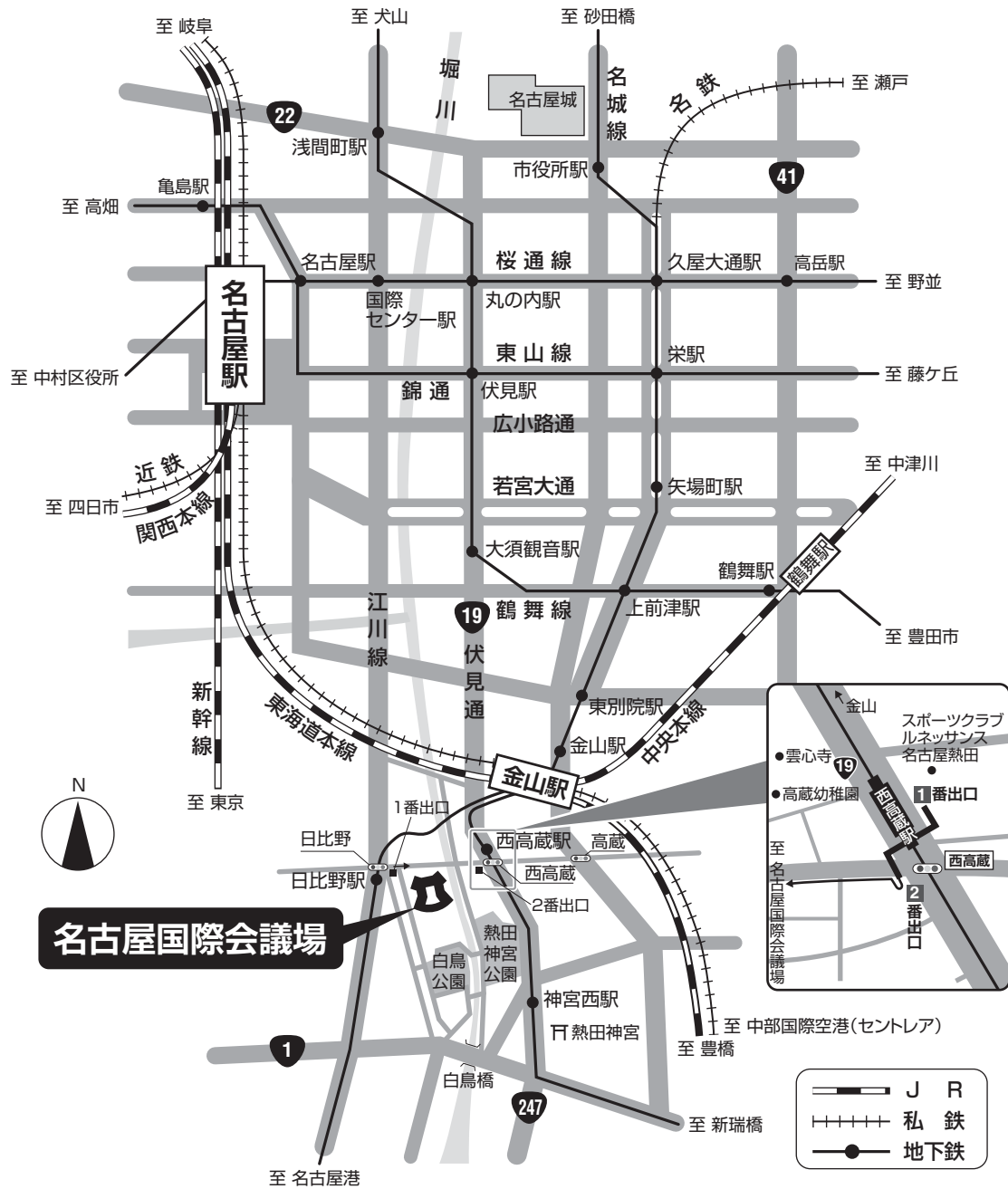
TEL：052-782-6211 FAX：052-782-2678

e-mail：syonisinsin30@hoshigaoka-saisei.jp

※基本的にお問い合わせはメールでお願いします。

プログラム委員：井口 敏之、関口 一恵、金子 宏、久徳 重和、福田ゆう子、
梶原 莊平、高橋 純哉

交通アクセス



名古屋駅から (所要時間約20分)

名古屋駅	タクシー	約20分 (約2,000円)	
	名鉄線 (¥180)	金山駅	地下鉄名城線 (左回り) (¥200) → 西高蔵駅 (新瑞橋方面) → 徒歩 約5分
	JR 東海道本線 (¥160)	金山駅	地下鉄名港線 → 日比野駅 (名古屋港行き) → 徒歩 約5分
	JR 中央線	栄駅	地下鉄名城線 (左回り) → 西高蔵駅 (新瑞橋方面) → 徒歩 約5分
	地下鉄東山線	栄駅	地下鉄名港線 → 日比野駅 (名古屋港行き) (地下鉄名古屋駅から¥230)
	地下鉄桜通線	久屋大通駅	地下鉄名城線 (左回り) → 西高蔵駅 (新瑞橋方面) → 徒歩 約5分
		久屋大通駅	地下鉄名港線 → 日比野駅 (名古屋港行き) (地下鉄名古屋駅から¥230)

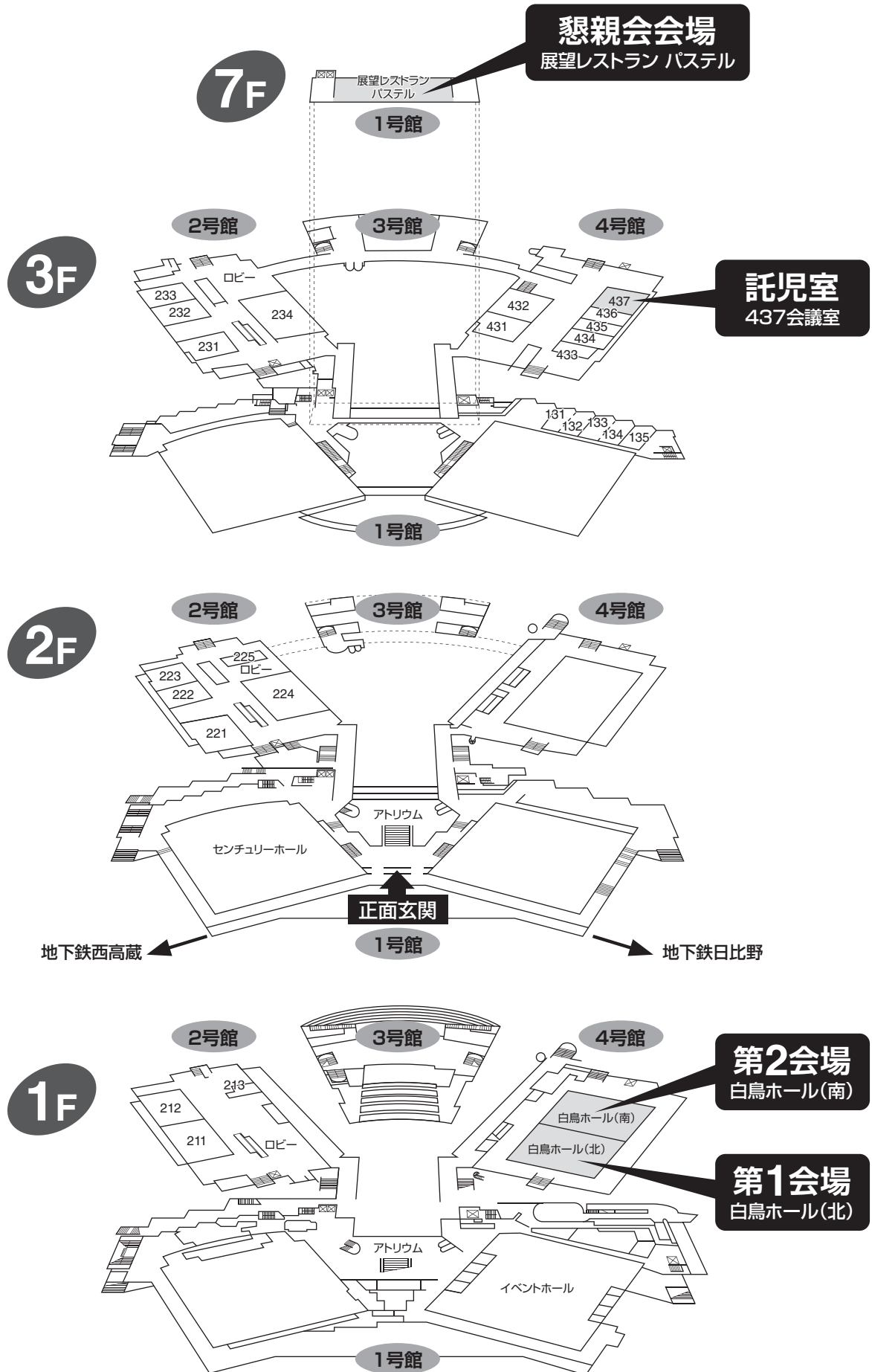
中部国際空港 (セントレア) から (所要時間約40分)

中部国際空港 (セントレア)	名鉄空港特急 (¥790)	金山駅	地下鉄名城線 (左回り) (¥200) → 西高蔵駅 (新瑞橋方面) → 徒歩 約5分
		金山駅	地下鉄名港線 → 日比野駅 (名古屋港行き)

※快速特急・特急の特別車は別途
ミューチケット (¥350) が必要です。

※名古屋空港 (小牧) からは、名古屋駅行きの直行バスをご利用ください。

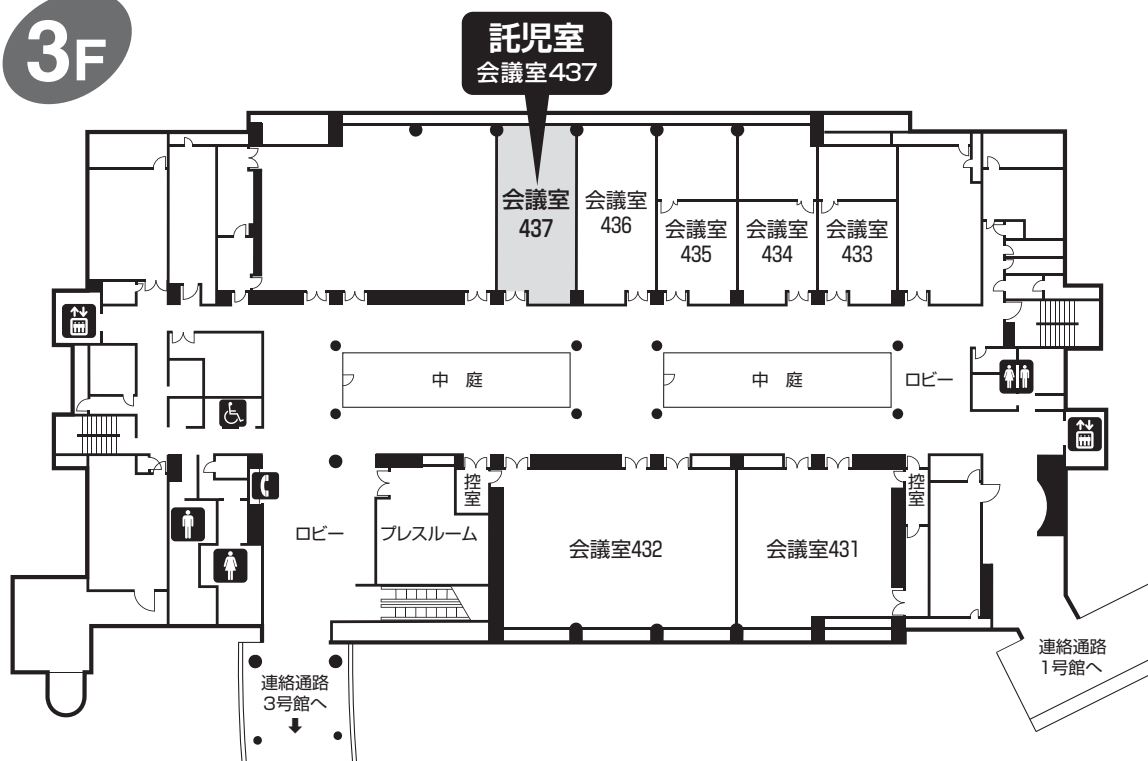
会場フロア図



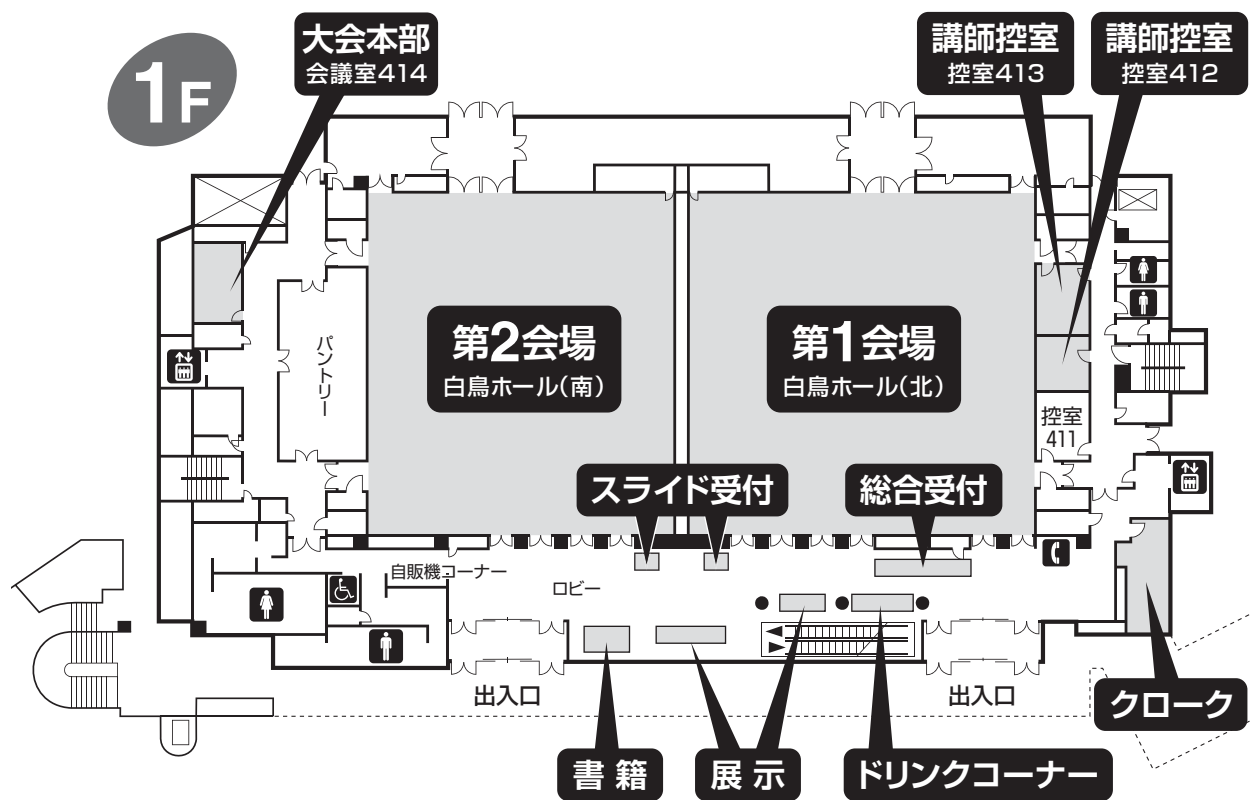
会場案内図

名古屋国際会議場 4号館

3F



1F



1日目 9月7日金

第1会場 1F 白鳥ホール（北）

第2会場 1F 白鳥ホール（南）

3F 会議室

8:30	8:30～	受付開始（白鳥ホール ロビー）	
9:00	9:00～9:50	会長挨拶と講演 18年間治療を続けてきた症例からの 学び ～周産期の意味とその後の育ち 座長：齋藤 伸治 演者：井口 敏之	
10:00	10:00～10:50	一般演題 メインテーマ関連 1 O-1～O-5	10:00～10:40 一般演題 調査研究 1 O-6～O-9
11:00	11:00～11:50	30回記念特別講演 座長：田中 英高 演者：杉山 登志郎	
12:00	12:00～12:50	ランチョンセミナー 1 ADHD と不適応 座長：河野 政樹 演者：荒木 章子	12:00 ～13:00 各種委員会
13:00	13:00～13:50	一般演題 診療のまとめ O-10～O-14	13:00～13:40 一般演題 調査研究 2 O-15～O-18
14:00	14:00～16:00	30回記念シンポジウム 温故知新 司会：村上 佳津美、汐田 まどか シンポジスト：富田 和巳、石谷 暢男 土生川 千珠、小屋松 淳 指定発言：田中 英高	14:00～14:50 一般演題 学校との連携 O-19～O-23
15:00			15:00～15:40 一般演題 虐待関連 O-24～O-27
16:00	16:00～17:00	研究委員会報告	16:00～17:00 一般演題 グループ・トレーニング O-28～O-33
17:00	17:00～18:30	イブニングセミナー 論文を読んでもみよう・ 書いてみよう	
18:00			
18:30			

2日目 9月8日土

第1会場 1F 白鳥ホール（北）

第2会場 1F 白鳥ホール（南）

3F 会議室

8:30	8:30～	受付開始（白鳥ホール ロビー）	
9:00	9:00～9:50	一般演題 地域との連携 O-34～O-38	9:00～10:00 一般演題 起立性調節障害 O-39～O-44
10:00	10:00～10:50	教育講演 1 バイオフィードバックを用いた臨床経験 座長：金子 宏 演者：竹内 聡	10:00～10:50 一般演題 摂食障害関連 O-45～O-49
11:00	11:00～11:50	教育講演 2 消化器心身症 up to date 座長：竹中 義人 演者：金子 宏	11:00～11:50 一般演題 摂食障害とチーム医療 O-50～O-54
12:00	12:00～12:50	ランチョンセミナー 2 ADHD児の「氏」と「育ち」を俯瞰 した治療戦略を目指して 座長：宮本 信也 演者：井上 祐紀	12:00 ～13:00 評議員会
13:00	13:00～14:00	総 会	
14:00	14:00～16:30	メインテーマシンポジウム 子どもの心身症は予防できるか ～周産期からの支援を通して～ 座 長：宮本 信也、井口 敏之 シンポジスト：宮本 信也、吉田 敬子 小川 園子、藤田 一郎	
15:00			15:30～16:20 一般演題 発達障害と心身症 O-55～O-59
16:00	16:30～17:10	一般演題 メインテーマ関連 2 O-60～O-63	16:30～17:30 一般演題 症例と治療 1 O-69～O-74
17:00	17:10～18:00	一般演題 メインテーマ関連 3 O-64～O-68	17:30～18:20 一般演題 症例と治療 2 O-75～O-79
18:00			
18:30	18:30～	懇 親 会（7F 展望レストラン パステル）	

3日目 9月9日日

1F 白鳥ホール

3F 会議室

8:30	8:30～	受付開始	8:45～ 受付開始
9:00	9:00～13:00	公開研修会 専門職のための発達障害セミナー 各ライフステージにおける発達障害児者への支援ポイント 総合同会：石川 道子 講師：今枝 正行、浅井 朋子、宮地 泰士	9:00～11:00 認定医試験
13:00			

懇親会を楽しんで下さい。

日本ではピエロの愛称で親しまれる『クラウン』の集団です。

皆さんは、どんな印象をお持ちですか？喋らない・白塗りの顔で大きな口に派手な化粧をした感じ…

子供の頃大道芸などで、一度や二度はお目にかかった事があると思います。

そんなクラウンのパフォーマンス集団が名古屋を拠点に全国で活躍をしています。人々に笑いをもたらす存在がクラウンです。学術集会の懇親会の場に、名古屋の思い出になればと思います。短い時間ではありますが、大いに楽しんでいただければ幸いに存じます。

[プレジャー B]

プレジャー B は 1994 年に結成された日本では珍しいクラウン(道化師)のみのパフォーマンス集団です。

名古屋のスタジオを拠点に幼稚園、テーマパーク、ショッピングセンター、結婚式場など全国で活躍しています。

国内だけでなく、国立モンゴルサーカス出演、マイムフェスティバル出演、毎年アメリカで行なわれるクラウンキャンプやクラウンのコンベンション WCA (ワールドクラウンアソシエーション) への参加など海外でも活動しています。

プレジャー B に所属するクラウンの一部は「特定非営利活動法人 日本ホスピタル・クラウン協会」にも所属し、小児がんや小児

麻痺など闘病生活を送る子どもたちに、クラウン独自のパフォーマンスで笑顔を届ける活動もしています。

2005 年に名古屋第二赤十字病院から始まった定期的な病院訪問は、現在では全国に広がり 53 の定期訪問病院に 47 人の協会認定クラウン達が日本各地で活動を続けています。

又活動の一環として行なっている東北被災地のテントサーカスでは、仮設住宅で孤立しがちな被災地の皆さんに笑顔を届けています。



学術集会プログラム

会長講演 9月7日(金) 9:00～9:50

第1会場

座長：齋藤 伸治（名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野）

18年間治療を続けてきた症例からの学び ～周産期の意味とその後の育ち～

井口 敏之 星ヶ丘マタニティ病院小児科

特別講演 9月7日(金) 11:00～11:50

第1会場

座長：田中 英高（大阪医科大学小児科・発達小児科）

私の児童精神医学事始め

杉山 登志郎 浜松医科大学児童青年期精神医学講座

教育講演1 9月8日(土) 10:00～10:50

第1会場

座長：金子 宏（星ヶ丘マタニティ病院副院長・内科部長）

バイオフィードバックを使用した臨床経験

竹内 聡 たけうち心療内科

教育講演2 9月8日(土) 11:00～11:50

第1会場

座長：竹中 義人（たけなかキッズクリニック）

消化器心身症 up to date

金子 宏 星ヶ丘マタニティ病院、藤田保健衛生大学・愛知医科大学

座長：宮本 信也（筑波大学人間系）
井口 敏之（星ヶ丘マタニティ病院小児科）

子どもの心身症は予防できるか ～周産期からの支援を通して～

S1-1 心身症の成り立ち 一氏も育ちも一

宮本 信也 筑波大学人間系

S1-2 周産期精神医学と子どもの心身の発達

吉田 敬子 九州大学病院子どものこころの診療部

S1-3 脳に働くホルモンと環境要因による情動・社会行動の調節

小川 園子 筑波大学・行動神経内分泌研究室

S1-4 認知行動療法にもとづいた「前向き子育てプログラム」

藤田 一郎 佐賀大学文化教育学部

司会：村上 佳津美（近畿大学堺病院）
汐田 まどか（鳥取県立総合療育センター）

温故知新

シンポジスト

富田 和巳 こども心身医療研究所・大阪総合保育大学
石谷 暢男 石谷小児科医院
土生川 千珠 国立病院機構 南和歌山医療センター
小屋松 淳 国立病院機構 長崎医療センター

指定発言

田中 英高 大阪医科大学

論文を読んでみよう・書いてみよう

渡部 泰弘 研修委員長・秋田県立医療療育センター小児科

イブニングセミナー WG

大野 貴子 西部島根心身障害医療福祉センター 脳神経小児科
奥見 裕邦 千葉大学和漢診療科
亀田 誠 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 小児科
作田 亮一 獨協医科大学越谷病院 子どものこころ診療センター
芳賀 彰子 九州大学大学院医学研究院心身医学
安島 英裕 神戸市立医療センター西市民病院小児科

永光 信一郎 日本小児心身医学会研究委員会 委員長 (担当理事 小柳 憲司)

総合司会：石川 道子(武庫川女子大学子ども発達研究センター)

各ライフステージにおける発達障害児者への支援ポイント

講 師

今枝 正行(名古屋市北部地域療育センター)

浅井 朋子(名古屋市発達障害者支援センター)

宮地 泰士(名古屋市あけぼの学園)

座長：河野 政樹(広島県立障害者療育支援センターわかば療育園)

ADHD と不適応

荒木 章子 旭川医科大学小児科 講師、子どもの発達診療センター 副センター長

共催：ヤンセンファーマ株式会社

座長：宮本 信也(筑波大学人間系)

ADHD 児の「氏」と「育ち」を俯瞰した治療戦略を目指して

井上 祐紀 島田療育センターはちおうじ児童精神科

共催：日本イーライリリー株式会社

0-71 周期的嘔吐により入退院を繰り返した男児の一例 —治療的かわりの検討—

○山本 夕奈

愛媛県立中央病院

0-72 鑑別が困難であった歩行障害の一例

○吉田 誠司、田中 英高、玉井 浩

大阪医科大学附属病院

0-73 過換気症状の改善を目的として入院加療したが結果的に症状悪化し転院を余儀なくされた1例

○藤田 泰幸

埼玉協同病院 小児科

0-74 好酸球性腸炎の治療中に心因性の腹痛を呈して不登校に陥った一例

○柳本 嘉時、小林 穂高、藤井 由里、石崎 優子、谷内 昇一郎、金子 一成

関西医科大学小児科学講座

第2会場 17:30～18:20

[症例と治療2]

座長：石崎 優子（関西医科大学小児発達支援講座）

城間 直秀（たかえすクリニック）

0-75 連日性頭痛から不登校となった子および動揺する母への抑肝散母子同服と心身医学的対応

○安島 英裕

地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター西市民病院 小児科

0-76 塾の成績が良いことをコンプリメントすることによって、面談がスムーズになった不登校の一症例

○佐野 博彦

さの小児科クリニック

0-77 心身症を予防するということは… —スティーリングエフェクト、コンステレイションの見方から—

○高尾 龍雄^{1,2)}

1) 京都大学医学部附属病院小児科心療外来・神港園診療所、2) 神港園診療所

0-78 不登校医療の現場における羅生門的アプローチによる教育評価

○松崎 淳人^{1,2,4)}、若林 聖子¹⁾、島田 長人²⁾、並木 温³⁾、松橋 正和⁴⁾

1) 国立病院機構神奈川病院、2) 東邦大学医療センター大森病院教育企画管理部、
3) 東邦大学医学部教育開発室、4) 東邦大学医学部卒業臨床研修／生涯教育センター

0-79 小児心身症外来における「黄金律」の導入の成果の検討

○飯野 彰人

がん・感染症センター都立駒込病院

抄 録

会 長 講 演

特 別 講 演

教育講演1・2

18年間治療を続けてきた症例からの学び ～周産期の意味とその後の育ち～

井口 敏之

星ヶ丘マタニティ病院小児科

症例は15歳から33歳の現在まで治療中の女性。私自身が医師になり10年ほどたったころに心身症の専門外来で出会いました。中3の11月、母親と一緒に来院。身長164cm、体重48kg、やせ形色白で、かわいい女の子でほとんど自分からはしゃべらず、ニコッニコッと笑顔を見せるものの、時折、口唇がチアノーゼになるほど緊張感がありました。本人が訴えるのは当時も現在も気持ち悪い、おなか痛い、頭痛いなどの毎回決まった症状です。小4からの不登校で、中学は入学式のみ出席。母からは「一人で行動できるようになって自立してほしい」という願いで、実際母親から離れて一人では行動できませんでした。

この頃、TAT(主題統覚検査)では、ほとんどがお話にならず、とてもパーソナリティが未熟で人間関係の基礎ができていない(母親との対象関係ができていない)と考えられました。

生育歴は、本人の出生前に第1子妊娠初期に流産。第2子満期で陣痛ついて病院に行ったが心音なく死産。母はもう子どもはいらないと思ったが、父に「俺が面倒見るからどうしても産んでくれ」と頼まれ産むことにしたとのこと。生後2ヶ月で実家から自宅に戻る。3ヶ月健診でレントゲン上、股関節の骨の発育が悪いから「おんぶも抱っこしてはいけない」と言われ寝かしたままにした。置いて買い物に行くと帰る頃には必ず強く泣いていた。1歳6ヶ月で抱いてもいい許可が出た。3歳で下に双子が出生、双子に手がかかるようになり、見放された形になった。

母は未熟な人で信仰に頼り、本人が不安や体調不良を訴えると、パワーシール(?)を貼り、体中にシールが貼ってあることもよくありました。本人の周産期からの過敏さにプラスして、より過敏さが増すような養育状況の中で、小3までよい子でいることで何とか過ごせてきたのが、小4で担任に攻撃されるようになり、破綻し、不登校、引きこもりとなったと思われました。

その後は通信高校を優秀な成績で卒業しましたが、送り迎えは母親が行い、授業中も車で母が待つというパターン。通信大学に入学したが、困難で退学。21歳には夏の暑さも重なり、食べられなくなり体重減少。入院(1年2か月)しIVH、経管栄養などを行い、この間母親はずっと付き添い。本人は精神科受診し、「統合失調の陰性症状か」との指摘を受けました(第20回日本小児心身医学会発表)。転医先を考慮しましたが、うまくいかず、在宅で経管栄養を施行。約1年あまり経管栄養を行っている間に食べられるようになり、体重回復、経管栄養を中止。

24歳家で作った食事などを話すようになり、妹にいじめられることや母とけんかしたことを話せるようになりました。25歳、家にいるのがつらくなり、初めて一人で過

換気になりながらも5日間入院。26歳、5か月間入院しちょっとした冒険ができるようになりました。日記に自分の気持ちを表現できるようになりました。絵本を書いたり、コラージュを作ったり、詩を作ったり、夢のドロドロな話をしたり、自転車に乗れるようになったり、家でも一人で行動できるようになりましたが、その分、家に帰ると母への分離不安と自立したい部分がぶつかるようになり緊張が高まります。演者ともぶつかるようになりました。27歳、家で暴れることが1年ほど続きました。アルバイトのチャレンジも数日してみました。28歳犬を飼い始め、29歳、入院しながら自動車の免許を取得。30歳、コンビニでアルバイトを週3日から始め、4か月ほど続き、その後、障害者の施設でスタッフとして約2年働きました。成長の中で何が起きていたのか振り返りながらお話ししたいと思います。

略 歴

- | | |
|-------|--|
| 1960年 | 岐阜県中津川で兼業農家の3男として生まれる。
中3、母くも膜下出血のため一晩で死去。 |
| 1985年 | 名古屋市立大学医学部卒業
名古屋第2赤十字病院にて研修、このとき母のような斉藤久子先生に出会い師事。 |
| 1989年 | 市立四日市病院小児科勤務。この時代に先輩の山本崇晴先生の紹介で国谷誠朗先生のワークショップに参加し多くを学びカウンセリング治療を知る。 |
| 1994年 | 名市大小児科研究医となり大学で不登校の子のTATを取り始める。中京大学の鈴木睦夫先生に師事。 |
| 1999年 | 名市大同級生で親友の竹内聡先生のつなぎで星ヶ丘マタニティ病院小児科に勤務。
「子どもが情緒豊かに育つために周産期からの支援を」がライフワーク。 |

私の児童精神医学事始め

杉山 登志郎

浜松医科大学児童青年期精神医学講座

私の家は古くから続く代々医系の一族であるらしい。ただし御殿医などという高級医では無く、田舎の村医者である。私は幼い頃から不器用で、多動、衝動的であった。いつの頃からどんなきっかけで児童精神科医を目指すようになったのかよく分からない。だが医学部の在籍中に既に決意は固まっており、準備として知り合いの幼稚園に頼み込み、夏休みに臨時保父さんをさせてもらったりした。

1976年の卒業から2年間、general training のつもりで小児科の研修を受けたが、この経験は、抜き差しがたい in printing をもたらした。とはいえ、行動障害を持つ PDD や非行児など、はみ出し型の心身にまたがる問題を持つ子どもたちが好きなのは、小児科医としてスタートをしたことがプラスに働いていると思う。児童精神医学を学べる所を探し、名古屋大学医学部精神科に入局を許された。その伝統は clinical empiricism である。私が極論を避ける傾向があるのは、若林真一郎先生、石井高明先生などに叩き込まれた薫陶が未だに残っているからに他ならない。

精神科の基礎研修の後、1983年に愛知県コロニー中央病院精神科に勤めるという幸運を得、自閉症や知的障害の児童・青年と格闘する毎日を送った。当時は、発達障害を専門とする精神科医は本当に少なかったので、(余り公表できないような事を含め)様々な経験をした。留学のための準備を少しずつ進め、UCLA 精神神経医学研究所への留学が許された。自閉症の生理学的研究に従事したが、時間があるのでユング派分析家シュピーゲルマン博士から教育分析を受ける機会に恵まれ、これまでの人生を振り返る機会になった。

帰国後の1989年、思いがけず名大精神科に助手として戻ることになった。ここが人生のターニングポイントで、名大のスタッフにならなければ、発達障害を専門とする精神科医としてもっとのんびりした生活を送っていたのではないかと思う。当時、児童のスタッフは1人のみで、臨床に明け暮れる毎日であった。ここで自閉症のタイムスリップ現象をまとめることができた。また学習障害の新聞記事をきっかけに、大量の軽度発達障害児童の診察を余儀なくされ、そこからアスペ・エルデの会がスタートし、高機能広汎性発達障害の臨床研究が始まった。1995年に静岡大学教育学部障害児教育専攻に教授として赴任した。学校教育の内側に入った経験は学校との協働の上で大きく役立った。2000年いわゆる豊川事件が起き、高機能広汎性発達障害が広く世間に知られるようになったが、このころから私は、これまで十分に対応出来なかった子ども虐待臨床に正面から向かい合ってみたいと考えるようになった。2001年新しく発足した子ども病院、あいち小児保健医療総合センターに心療科部長として赴任し、2010年に退職するまで、特に子ども虐待の臨床を通して多くの新たな学びを得た。これらの臨床の経験は、その都度報告をしてきた。

-
- 1) 早期母子分離ラットは脳内オキシトシンニューロン数が減少している、
 - 2) 早期母子分離ラットはストレス負荷により腸管収縮機能が亢進する、
 - 3) IBS にはストレスホルモンである CRF が関与する、
 - 4) オキシトシンは CRF 分泌を抑制する
- との研究の結果と併せて考えると新生児期での母子分離、対人緊張での IBS の悪化にオキシトシンが関係する可能性のみならず、治療への応用が期待できる。
- IBS を中心として上記のことを含めて消化器心身症 up to date を紹介する。

略 歴

昭和 58 年 3 月	名古屋大学医学部医学科卒業
昭和 64 年 1 月	愛知医科大学附属病院助手（第四内科学講座）
平成 5 年 9 月	外国留学（米国加州ロサンゼルス校：UCLA postdoctoral fellowship）
平成 13 年 2 月	愛知医科大学医学部附属病院 総合診療内科 副部長
平成 14 年 10 月	愛知医科大学看護学部 病態治療学 教授
平成 18 年 4 月	藤田保健衛生大学医学部 内科学（心療内科）教授
平成 23 年 7 月	現 職

資 格 医学博士、労働衛生コンサルタント（保健衛生）、臨床心理士、EMDR トレーニング修了

所属学会・専門医

日本内科学会・総合内科専門医
日本消化器病学会・専門医
日本心身医学会・指導医
日本心療内科学会・指導医
米国消化器病学会・国際会員

学会における役職

日本消化器病学会評議員
日本心身医学会理事・中部支部長
日本心療内科学会評議員
消化器心身医学研究会代表幹事
日本神経消化器病学会常任理事

抄 録

メインテーマシンポジウム

30回記念シンポジウム

イブニングセミナー

研究委員会報告

地方会委員会

公開研修会

「子どもの心身症は予防できるか ～周産期からの支援を通して～」を企画して

井口 敏之

星ヶ丘マタニティ病院小児科

心身症の子どもの治療にあたって、その子に起きていることを理解し、その子や家族にとって、治療者がどう関わったらいいのか、どんな治療方法がいいのか、どういう治療目標をもったらいいかということが非常に重要だと思われれます。しかし、摂食障害にしろ、不登校にしろ、ある一部の子たちと関わる際に、本人自身も悩みにならず、共感的に治療者が関わろうとしても、心理的にやり取りする面接にならず、この子には一体何が起きているのか、どう関わったらいいのかわからないという問題にぶち当たることがあります。そんな時に、私はTAT(Thematic Apperception Test:絵を見てお話を作る)に出会い、そうした子どもたちにTATを行ってみました。すると、登場人物に同一化したお話を作れない、場面の記述だけで、聞いていて共感できるお話が作れなかったりします。これは、情緒が未発達であること、その基礎は母子関係であろうことが推測されました。では、母子関係が豊かになれば、情緒豊かに育つのではないかと、将来の重い心身症は予防できるのではないかと考えるようになりました。そして、そのためには支援がいつからあったらよいのだろうか、それは周産期ではないかという思いに至りました。実際にその場に立って実践するために、私は産科のある病院に希望を出して、勤務移動をさせていただきました。

そんなわけで、子どもの心身症の予防・心が豊かに育つための子育ての支援が私のライフワークになったわけです。この学会のお引き受けするときにこのテーマはすぐに決めました。そしてこのシンポもすぐに決めました。そしてこうした分野で1番尊敬する宮本先生にお願いし相談に乗っていただきました。私の勝手な思い込みや希望を宮本先生が丁寧に整理してくださり、その中で今回のシンポジストを選ばせていただきました。

まず、宮本先生に脳と心の発達にからめて心身症の成り立ちをまとめていただきます。そして、産後うつ母親の問題は子どもの情緒や認知に与える影響が大きく、吉田先生にぜひお話をお聞きしたいと思い、このシンポジウムにどうしても来ていただきたいと交渉をさせていただきました。さらに、親子の関わりが心理的な推理などではなく、実際に科学的に子どもにどう影響しているのか、最近の知見を小川先生が動物実験を通してお話いただけます。そして私たち小児科医は実際に何ができるのか、どんな支援ができるのか、一つの提案として藤田先生がいろいろな子育て支援をしておいでなので、その中で、トリプルPについてお話いただき、何らかのヒントを学び取っていただけたら幸いと思います。

そして、一般演題の中に周産期からの子育て支援の演題を多数いただきました。同じように周産期に関心を持ってくくださる仲間がたくさんいることに本当に何よりの喜びを覚えます。

心身症の成り立ち —氏も育ちも—

宮本 信也

筑波大学人間系

ストレッサーがあった場合、必ず何らかのストレスが生じる。生じるストレスの状態は、ストレッサーが加わったときにその子どもに関連していた修飾因子により左右される。修飾因子とは、ストレッサーに対する個人の受けとめ方や感じ方(perception or sensitivity)に影響を与えるものである。修飾因子としてあげられるものは、次の3つである。それらは、①ストレッサー自体の特徴(ストレッサー)、②個人の生物学的・心理的特性(個人特性)、③その個人が持つ援助システムの状況(援助システム)、である。個人特性とは、子どもが持って生まれた素因と成長・発達過程で形成・獲得された特徴といえる。前者には、体質などの身体特性と気質・発達特性などの心理特性があり、いわゆる「氏」に相当し、遺伝要因で規定される。後者は、素因と環境要因との相互作用でできるもので、運動技能や対処技能などの能力的特徴と価値観・思考様式などの性格的特徴から成る。これら能力と性格には、育った環境、つまりは「育ち」が密接に関係する。個人特性は、子どもの脆弱性(vulnerability)と回復力・弾力性(resilience)を構成する。援助システムとは、子どもが持つ人とのつながりや関係性のことである。具体的には、子ども自身を支え助けてくれる人の有無、および、そうした人たちへのアクセス状況などとなる。

ストレッサーと修飾因子の相互作用により生じたストレスには、修飾因子が再び影響する。そして、問題回避に働く修飾因子と問題増強に働く修飾因子との相互関係により、再適応して安定化するか、再適応に失敗し心身症発症や心理・行動面の問題が出現するかのどちらかに分かれることになる。

結局、心理社会的ストレッサーから心身症発症に至るかどうかは、修飾因子で左右されるといえる。とするならば、心身症の予防のためには、修飾因子への介入を考えればよいことになる。ストレッサーの発生が予測できるとき、あるいは、ストレッサー自体を直接操作できるときは、ストレッサーへの介入が予防効果を生むことになる。個人特性に関しては、素因へ介入することは通常、極めて困難である。しかし、生まれた後の介入により、個人特性の中にある脆弱性を低下させ、回復力・弾力性を高めることができれば、それは心身症の予防につながることになるのである。援助システムに関しては、子どもが困ったときに、子どもを支え、助言やより直接的な支援を提供してくれる人がおり、しかも、そうした人たちが、子どもの側から助けを求めなくても手をさしのべてくれる状況があるならば、子どもが困難に対処できる可能性が高くなり、再適応に向かう、つまりは心身症を予防できることは容易に推測されることである。そして、ほとんどの場合、子どもにとってそうした援助システムの中心になるのは親である。つまりは、親子の関係性が、心身症の予防に関係することになる。なお、適切で良好な親子関係は、

回復力・弾力性という個人特性も高めるので、二重に心身症予防に関係することになる。

私たちは、子どもの上に降りかかる全てのストレスを事前に取り除いたり、すぐに対処してなくすることは残念ながらできない。そうであるならば、心身症の予防、さらには、発展させて広く子どもの心の健康の維持のためには、個人特性と援助システムへの目配りが極めて重要であるといえるであろう。そして、氏(素因)を変えることはできなくても、「育ち」(環境)により氏の表現型を変えることは可能であり、最終的には子どもの回復力・弾力性を高めることができるのである。そこに、私たちが、子どもと保護者に、そして、子育て状況に働きかけ続ける意味があるといえるであろう。

略 歴

1978年3月 金沢大学医学部卒業
1978年5月より 自治医科大学小児科研修医
その後、同助手、講師を経て
1991年より 筑波大学心身障害学系助教授
1998年より 同 教授
2010～2011年 筑波大学附属聴覚特別支援学校校長兼務
2012年 筑波大学人間系長(大学執行役員兼務)

公 職：法務省中央更生保護審査会委員
厚生労働省社会保障審議会専門委員
厚生労働省脳死下での臓器提供事例に係る検証会議委員
文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」協力者会議協力者

役員等：日本小児精神神経学会理事長
日本小児心身医学会理事
日本LD学会常任理事・研究委員会委員長
日本子ども虐待防止学会理事・学術集会支援委員会委員長
日本発達障害学会理事・編集委員会常任委員
日本心身医学会代議員

著書・論文(最近のもの)

宮本信也：発達障害の二次障害をどのように捉えるか, Pharma Medica 30(4):21-24, 2012
宮本信也：子どもの不安の表れ方, 教育と医学59(19):932-939, 2011.
宮本信也：ADHD 臨床の概要, Pharma Medica 28(11):9-12, 2010.
宮本信也：発達障害と不登校, 東條吉邦・大六一志・丹野義彦編：発達障害の臨床心理学, 東京大学出版会, 243-254, 2010
宮本信也：発達障害とその周辺への支援 思春期にみられる問題とその支援, 日本小児科医学会会報 28:79-82, 2009.
宮本信也：不安障害, 強迫性障害, 小児内科 41supl.:810-817, 2009
宮本信也：発達障害のリハビリテーション 歴史と現状, MB Med Reha 103:1-7, 2009

周産期精神医学と子どもの心身の発達

吉田 敬子

九州大学病院子どものこころの診療部

子どもの誕生は、喜ばしくおめでたい。一方、周産期は、出産直後の女性ホルモンの急速な低下など生物学的な変化、家族間の役割など心理社会的変化も生じ、精神医学領域の問題が生じやすい時期である。なかでも産後うつ病の発症率は10数パーセントと高いことが、1980年代以降の多くの先行研究から報告されている。かつ、それは母子・家族関係とその後の子どもの発達に影響を与えている。妊産婦と新生児・乳幼児に関わる医療従事者は、まずこの知識を十分に認識しておく必要がある。

さらに子どもと家族のウェルビーイングのためには、女性と家族を対象とした心理教育、妊産婦の症状評価や医学診断、養育機能評価と育児サポート、子どもの早期からの被養育環境のモニター、子どもの成長と発達の長期のフォローが重要である。これらについて、適切な時期に適任の職種のスタッフによるケアと介入および治療がなされることが必要である。

メンタルケアの対象となるのは、広く一般人口のなかで見出される育児不安から、幻覚や妄想を伴う産後精神を発症しているごく少数の女性まで含まれる。しかし、妊産婦や育児中の女性が精神科医療機関へアクセスをすることは容易ではない。さらにケアや治療は、それらの内容や重症度および発現する時期により異なる。しかも、彼女たちに関わるべき適任スタッフも、産科や小児科、地域保健福祉関連の行政のスタッフから心理士や精神科医師など多岐にわたるため、多領域多職種による治療戦略が必要となる。

最近では、妊娠中の喫煙や飲酒などの要因を除いてもなお、妊娠中のストレスそのものが胎児の子宮内発育不全、形成異常(奇形)、低出生体重、子どもの誕生後の情緒や発達の障害(注意欠如多動性障害)など、子どもの予後に関連することも明らかになってきた。これらのことをふまえ、演者の所属する子どものこころの診療部の精神科スタッフと心理士は、2002年から産科スタッフと連携して、妊娠後期から出産後および育児期まで継続したケアを行っている。当日は、治療を受けた妊産婦109例について、症状と出産後の転帰、出産時とその後の乳児への影響、母子関係、妊娠中からの精神薬物療法の子どもの影響などについての解析の結果もご紹介する。

多領域多職種によるケアと治療戦略は、ドメスティックバイオレンスの被害者および子ども虐待もいたる養育者、特にそのリスクの多い10代の妊娠、流死産や不妊治療を経験した女性の心理と病理などにも適用されなければならない。当日はその理論と実践について、演者のデータや医療実践および教育活動も含めてご報告を行う。また、シンポジウムを通じて有意義なご示唆を仰ぎたい。

略 歴

1979年 九州大学医学部卒業、小児科学を専攻
1983年 精神科へ移り、子どもの精神医学を専攻
1988年 英国モーズレー病院児童精神医学部門に留学
1990年 ロンドン大学精神医学研究所に留学
1992年 同研究所研究職員、周産期精神医学部門で妊産婦の精神障害の薬物療法を研究
1997年 帰国、九州大学病院精神科助教、ロンドン大学精神医学研究所准教授
2000年 九州大学病院精神科講師
2009年 こどものこころの診療部 特任教授、現在に至る

著 書 吉田敬子，山下 洋，岩元澄子：育児支援のチームアプローチ－周産期精神医学の理論と実践－，吉田敬子（編著）金剛出版，東京，2006 ほかに

所属学会等

日本精神神経学会 精神科専門医

日本児童青年精神医学会 認定医

日本乳幼児医学・心理学会 理事 編集委員

The Section on Women's Mental Health of the World Psychiatric Association
（世界女性精神保健学会 学会誌編集委員）

脳に働くホルモンと環境要因による 情動・社会行動の調節

小川 園子

筑波大学・行動神経内分泌研究室

個体の一生においては、各発達段階に応じてホルモンレベルの変動とそれに呼応する脳内ホルモン受容体の発現が見られる。なかでも、アンドロゲンやエストロゲンといった性ステロイドホルモンは、脳組織の構築（形成作用：organizational action）や生理学的、生化学的な脳機能調節（活性作用：activational action）に関わることにより、脳の性分化や様々な行動の性特異的、時期特異的な表出に中心的役割を果たしている。主に卵巣から分泌されるエストラジオール（エストロゲンの一種）、主に精巣から分泌されるテストステロン（アンドロゲンの一種）は、血流に乗って脳に到達し、神経細胞の細胞質に存在するエストロゲン受容体あるいはアンドロゲン受容体に各々結合する。ひとたびホルモンが結合すると、ステロイドホルモン受容体は、細胞の核の中に存在するDNA の特定の部位に作用して様々な遺伝子の転写制御を引き起こし、その結果として行動や脳機能の調節が起こる。テストステロンの一部は酵素アロマターゼの働きによって脳内でエストラジオールに変換されることから、エストロゲン受容体は、雄の行動調節にも重要な役割を果たしている。

我々は、性ステロイドホルモンの中枢作用によって、活動性、情動性、不安のレベルや、攻撃、養育等の社会行動、さらには未知の個体と既知の個体を見分け記憶する社会的認知や社会的な場面での不安レベルや他個体への関心の示し方が制御される仕組みについて、主にエストロゲン受容体に着目して解析を進めている。特に、脳内での分布の異なる2種のエストロゲン受容体であるアルファとベータとが、各々担っている役割の違いとその脳内機構を明らかにすることを目指している。本講演の前半部分では、各種の遺伝子欠損マウスや脳部位特異的に遺伝子の発現を操作したマウスの行動解析を通して明らかとなったいくつかの事実を紹介し、情動・社会行動のホルモン基盤について解き明かす。

本講演の後半部では、性ステロイドホルモン依存的な行動が発達初期の生育環境や経験によって変容する様とその神経基盤について、現在我々が進めている研究成果を紹介する。新生仔期に毎日3時間、母親と分離される経験（母仔分離パラダイム）を持つ雄マウスでは、通常は思春期に発動する攻撃行動が大きく減少している。また、雌マウスにおいても、未知の個体との出会いの場面で社会的探索行動の減少や不安レベルの亢進が見られる等、新生仔期母仔分離経験が情動・社会行動の表出に及ぼす影響が明らかとなっている。これらの事実を基に、生育環境の変化がもたらす行動変容の神経内分泌基盤について、特に、情動性、社会的認知や母仔・雌雄の絆の形成に関与することが知られている脳内オキシトシンの動態の変化に着目して考察する。

自身を取り巻く他個体（人）と行動的、情動的関係性を築くこと、すなわち「社会性

の形成と維持」は、ヒトを含め多くの動物種にとって根幹的な問題であり、その神経生物学的基盤を理解することは極めて重要である。性特異的、時期特異的に脳へ働くホルモンの作用とそれを修飾する環境要因とにより、情動・社会行動の表出が個体の一生の中で様々に調節されていることの一端を紹介する本講演が、ヒトの社会性発達の神経基盤を考える一助となれば幸いである。

略 歴

1979年	筑波大学第二学群人間学類(心理学専攻)卒業
1979年	筑波大学心理学研究科博士課程比較心理学専攻 入学
1982年	University of Connecticut, Graduate School 入学
1988年	同上 修了(Neuroscience Major)
1988年～1993年	Postdoctoral Associate, TheRockefeller University
1993年～1996年	Research Associate, TheRockefeller University
1996年～2002年	Assistant Professor, TheRockefeller University
2002年～2005年	Associate Professor, TheRockefeller University
2004年～2011年	筑波大学大学院人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻・教授
2011年～	筑波大学人間系・教授
2006年～2011年	国立環境研究所環境リスクセンター・客員研究員
2006年～	Adjunct Associate Professor, TheRockefeller University
2007年～	Visiting Professor, MonashUniversity, Malaysia

最終学位

Ph.D., University of Connecticut, 1988

専門・研究テーマ

行動神経内分泌学 ステロイドホルモンによる情動・社会行動調節の脳内機構 行動の性差・性分化 思春期の社会行動 エストロゲン受容体 オキシトシン
社会認知 社会性の神経生物学基盤

小川 園子 (<http://www.kansei.tsukuba.ac.jp/~ogawalab/>)

協賛・カンパ等一覧

多くのあたたかいご支援を本当にありがとうございます

日本小児心身医学会東海北陸地方会の有志の先生方

日本小児心身医学会東海北陸地方会

名古屋市立大学小児科同門会

名古屋市立大学小児科心理発達外来

名古屋市小児科医会

MSD 株式会社

朝日総業株式会社

日医工株式会社

オオサキメディカル

岡崎信用金庫

(順不同・敬称略)

第30回日本小児心身医学会学術集会 プログラム・抄録集

会 長：井口 敏之（星ヶ丘マタニティ病院副院長・小児科部長）

事務局：星ヶ丘マタニティ病院小児科

担当：高瀬 昭生、山本 恭子

〒464-0026 名古屋市千種区井上町27

TEL：052-782-6211 FAX：052-782-2678

E-mail：syonisinsin30@hoshigaoka-saisei.jp

出 版：(株)セカンド
 株式会社セカンド
学会サポート <http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025